



❶ 牛若丸と弁慶の戦いを描いた「五条の橋」の一場面。なぎなたで立ちふさがる弁慶に身軽に応戦する牛若丸。繰り広げられる戦いは観客を物語へ引き込む

❷、❸ 日本書紀などに登場する神話「八岐大蛇」。恐怖におびえる稲田姫たちの前に素戔男尊が現れ、大蛇退治に挑む

❹ 若手の育成活動にも力を入れる同保存会。胆沢第一小学校のクラブ活動で教えた子どもたちのうち、数人は現在も活動を継続。中学3年生になり、共に舞台で共演している

奥州遺産

——ときを越え

受け継がれるもの——

第125回

おえなしだ
狼ヶ志田神楽

(市指定無形民俗文化財)

胆沢小山

散居集落と水田地帯が広がる胆沢・小山地区。豊かな自然に囲まれたこの地で代々伝承されてきたのが狼ヶ志田神楽だ。文久元(1861)年、山伏系である中沢神楽から伝授されたのが始まり。その後、南部系である三輪流神楽を習得することで、二つの神楽の特徴を合わせた今日の狼ヶ志田神楽が誕生した。南部神楽に属し、娯楽性の高い芝居仕立てで物語を織りなす。昭和35年、旧胆沢町無形民俗文化財に指定。現在は「宝剣納」や「三番叟」などの19演目を継承している。平成23年には、宮城県と一関市の団体と共に「南部神楽伝承推進協議会」を設立。お互いの技術向上や南部神楽の魅力を広めるため、月1回ボランティア公演を開催している。また東日本大震災直後には、被災地や避難施設に向き公演。被災者の不安な心に寄り添い、復興を祈願した。160年を迎える歴史ある狼ヶ志田神楽の舞は、この先も美しい農村の原風景と共に後世へと踊り継がれていく。

広告